



本堂は宝永4年(1707年)再建されたもので国宝に指定されています。参詣される方々のお籠り(おこもり)の場を広く内陣に取るため、奥行きが長い檜木造り(しゅもくづくり)が採用されたと云われています。



前立御本尊(一光三尊阿彌陀如来像)



松葉屋通信

七年に一度の善光寺御開帳が、いよいよ今年四月五日からはじまります。秘仏である御本尊さまのお姿を写した前立本尊さまを堂内にお遷しして、全国からいらっしやる善男善女のみなさまにご参詣いただく盛儀「御開帳」。本堂前には回向柱(えこうばしら)が立てられ、前立本尊さまの御手に結ばれた金糸と結ばれます。この回向柱に触れることで、御本尊さまに触れるのと同じ功德を得ることができるとされています。

スタンダードが スペシャルだった！

長野に生まれて育った私にとつて、『善光寺さん』は日常のお寺です。

お寺というものは、このくらいのお堂があつて、通りも仲見世も、仁王さまも。世の中の有名なお寺さんは、みーんなこのくらい、いや、これ以上の規模があるのだらう。と思つていました。なので、初めて浅草の観音さまにお参りしたときは、「ウソ！これは間違えたか。」と思つてしまいました。お寺に対するスケール感の基本が『善光寺さん』なのです。

勿論その後、もっともつとたくさん大きなお寺さん、美しいお寺さん、おもしろいお寺さんのあることを知りましたが、そうすることで今度は新たな興味や疑問を持つようになりました。(どうしてこの地にあるのかな？)

それにしても、このスタンダードなお寺には沢山のナゾや仕掛けがあつて、相当にワンダーランド！しかも今年は七年に一度のスペシャルイベント「御開帳」。いつも人と一緒にあり続けた、日本に初めていらした如来さまに、会いにきてください。長野には何がなくてもやっぱり『善光寺さん』なんです。

一光三尊像って？ ひとつの光背のもとに、三尊がつつまれている形式の仏像のことです。「善光寺式」は阿彌陀如来さまを中心に、観世音菩薩さま、勢至菩薩さまが両脇にいらっしやいます。その他、代表的なものには「法隆寺釈迦三尊像」などがあります。

秘仏の御本尊さま 善光寺の大伽藍は皇極3年(644年)に創建者本田善光の家ごと取込んだ形で建立されましたが、それから10年ほど後に如来さま自ら秘仏となられました。

ご安置場所 御本尊様は内々陣奥、正面より西側の瑞雲壇御厨子の中に安置されています。(一般的なお寺では御本尊さまは正面中央にいらっしやいますが)それは、『当初本田家の西廂の間に安置していた如来さまを、別にお堂を建ててそのまん中にご安置したところ、すぐにまた家の西廂に戻ってきてしまった』というお話によります。その時、如来さまは「ひとりぼっちで立派なお堂にいるより、人々のいるところにいたい」とおっしゃったとか。(さみしがりの如来さまが、なぜその後お姿を隠してしまわれたのでしょうか。不思議です。)

また、御本尊さま東隣には本田家一族の像が今も御本尊さまをお守りするよういらっしやいます。このように御本尊さまと創建者が同様に祀られている例は少ないと思います。

善光寺と聖徳太子 法隆寺には「善光寺如来の御書箱」があります。こちらもやはり永久封印の巻物ですが、明治5年の強引な調査によって、一部写しが『東京国立博物館』に保存されているそうです。これは聖徳太子と善光寺如来との往復書簡で、三巻(つまり三回のやりとりがあるということ)あるようです。(内容は、太子は人々の救済を、善光寺如来は太子を護ることの約束。のようですが、なぜ永久封印なのでしょう?)善光寺側の伝承でも、その存在を伝えています。その他、善光寺の個性については哲学者の梅原猛さんの文章『隠された十字架 法隆寺論』を引かせていただきます。

この善光寺如来の一光三尊の阿彌陀如来も、(本田)善光をはさむ妻とその子のイメージと深く関係しているのであろう。法隆寺釈迦仏の一光三尊の光背にも、そのような関係があてはまろう。太子を真中にはさんで、太子と同時に死んだその母と妻、そこには親密なる家族関係が表現されているのであろう。*()はkaitpan



創建者(御三郎)の像

matubaya
-tushin
vol.10
2009.3.8

発行■松葉屋家具店
026-232-2346

2009年
4月5日～
5月31日

ワンダーランドスペシャルイベント 善光寺御開帳



善光寺御開帳 ガイドブック

来迎二十五菩薩

本堂内々陣の欄間にある来迎二十五菩薩像。極楽からうつくしい音楽とともににいらつしやる菩薩さまです。その中にひとつとあなたも乗っていらつしやらない霊があります。こちらの霊は登録された方の指定席なのだそうです。



まめ5

まめ4

お戒壇



45メートルの真つ筒やみ、こんな経験なかなか出来るものはありません。鐘はもちろんです。出口から降り注ぐ光を見た時の「ありがたさ」つらありません。

まめ3

御三燈



創建当時、暗かった善光は如来様に灯す明りの油にも事欠くことがありました。すると如来様は白毫から光明を放ち、灯心に火を灯しました。それから千四百年、今も堂内の灯りはすべてこちらから輝かれます。現在は結婚式のキャンドルサービスなどでも提供していただけるそうです。

御神籤



境内のどこでも引ける「おみくじ」ですが、お西めは大筋善さんのお堂内左側です。「百円」昔から同じ木製の神籤箱を逆さにして穴から出てきた竹神と同じ数字が書かれた小抽出しからおじさんが一枚、渡してくれま。なぜか善光寺百草という親類(五百円)もあります。

まめ2

経蔵内八角輪蔵内に入っているのは鉄眼黄栗(てつげんおうばく)版一切経です。肘木を押して輪蔵を回すと一切経を説いたことになるとのことです。子どもの頃はぐるぐる回していました。現在は堂内に立入ることはできません。とても残念。うつくしい如意輪観音様もいらつしやいます。

経蔵

重要文化財



まめ1



まめ6



善光寺の山門の額に「善」といって、鳩が互列表わされていると云われています。それから善の字には牛の顔も見られるともいわれていますか？



鳩字

平成の大修理によって建立当時と同じ欄間(とちふさ)屋根が復活。御開帳期間中は二階部分も公開されます。



ねじれ柱



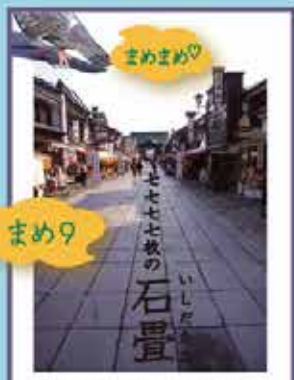
まめ7

まめ8



善光寺の道場の近くお石灯籠。あれ？何か置いてある。と近づくと、手づくりらしいほどけさますが、こういう風景に、善光寺さんへの信仰を感じる思いがしました。

手づくりらしい仏さま



まめ9

まめ10

江戸の商家大竹屋平兵衛の故郷息子には持ち金が尽きたので自宅に遊びに入ることに。暗い中、願う思った主人は横で突き刺してしまいました。灯りをよせてみるとなんと我が子。無常を感じた平兵衛は善光寺に詣でました。雨上兵衛は善光寺にぬかるんで皆無償しています。そこで供養にもなると思った平兵衛は石畳を寄進しました。

まめ10

お豆売りのおばあちゃん、どこへいっちゃったの？



善光寺豆ネタ帖

まめ12

仁王門



高村光雲・米原武海の合作による阿形・吽形はもちろん、是非見てほしいのはその裏側の二休東側は兼神様、西側は大黒様に堤沙門天と弁財天が合体した三休像です。どちらも彩色が鮮やか、作者は同じ仁王像とともに、彫形が忠告殿の資料館に展示されています。

まめ13



大動進と大本願 宝物館・資料館では仏像を間近に見ることが出来ます。また境内で自分だけのおその他お家の像 気に入りを見つめるのも楽しいです。

善子さんと光子さん

思案殿の石子に乳牛親子の像品があります。某乳業の寄贈品ですが、隠れた人気者(だと思おう)。光子さん(子牛)の購入欲った足がかわいい。



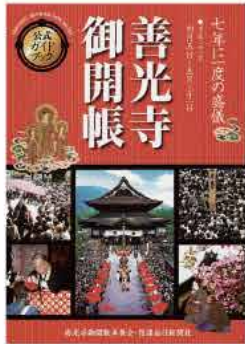
まめ14

まめ15

将来を写す鏡

堂内の大鏡。亡くなった人の四十九日まで鏡の前に立つとその人と再会できるとか、将来のパートナーを写すとか、さまざまな言い伝えがあります。

■御開帳関連行事日程			■御開帳期間中の日々の行事			
3月 9日(日)	14:30	本堂前	御開帳大回向柱受入式	回向柱	前立御本尊の右手に結ばれた金糸は、五色の善の綱を介して、本堂前に建つ高さ10メートルの回向柱につながっています。この柱に触れることで、人々は善光寺如来さまと直接ご縁を結ぶことができます。	
4月 3日(金)	13:00	本堂前	回向柱建立式			
	4日(土)	15:00	本堂内 本堂前			
	5日(日)	10:00	本堂内	お朝事・夕座法要	御開帳中は、毎朝の「お朝事」の際、お貫さま(大勲進)が前立御本尊のお厨子を開けます。期間中のみ行われる「夕座法要」ではお上人さま(大本願)がお厨子の扉を開けます。お朝事は、4月5日～24日は午前6時、25日～5月31日は午前5時30分(15日のみ午前5時10分)から、夕座法要は毎日午後5時からです。	
	8日(水)	11:00	針供養塔前			針供養会
	9日(木)	13:00	本堂内			善光寺御開帳回向柱寄進建立会大法要
	11日(土)	15:00	本堂内			全国善光寺会大法要
	15日(水)	11:00	忠霊殿	世界平和祈願万国戦没者英霊大供養会	御印文頂戴	御本尊さまの御分身ともいわれる宝印を頭にいただくことで、極楽往生の御利益が得られます。通常は新年(1月7日～15日)のみの行事ですが、御開帳期間中は毎日いただくことができます。 
	16日(木)	11:00	雲上殿	雲上殿納骨堂供養大法要		
	25日(土)	11:00	本堂前・内	中日庭儀大法要		
5月 5日(火)	11:30	忠霊殿前	釈尊降誕花まつり			
	9日(土)	11:00	本堂前・内	中日庭儀大法要		
	20日(水)	14:00	本堂内	善光寺信徒会大法要		
	24日(日)	10:00	山門前	屋台巡行		
	27日(水)	11:00	本堂内	御開帳奉賛会大法要	ご供養 ご祈願	ご供養・ご祈願の法要は、毎日本堂で厳修されます。(希望者申し込みのこ)また、毎週火曜日と金曜日の午後1時から、御開帳特別法要が行われます。
	31日(日)	10:00	本堂内	御開帳結願大法要		
6月 1日(月)	13:00	本堂内	前立本尊御遷座式			



**善光寺御開帳
公式ガイドブック**
発行 ■善光寺御開帳奉賛会
信濃毎日新聞社
サイズ ■A 5版・160ページ
価格 ■1,000円

善光寺事務局監修のガイドブックです。松葉屋通信でもご紹介したかった『善光寺縁起』や、御印文をネタにした落語『お血脈』。宿坊のことから門前町・周辺観光案内。また、全国の善光寺の情報など満載です。ご参詣の前にぜひ、お薦めの一冊です。



ワンダーランドスペシャルイベント
善光寺御開帳
二〇〇九年
四月五日(土)～五月三十一日

御開帳前に新発見！善光寺史料館・長野県信濃美術館も見のがせません。

その1 ■善光寺史料館展示仏は快慶作？ 史料館に安置されていた「木造阿彌陀如来像」。その作風から「安阿彌様(あんなみよう)」と呼ばれる快慶の作ではないかと住職が気づきました。専門家からも快慶作の可能性の高い、とのことが新聞に発表されました。確認されれば「重要文化財クラス」との意見も。ちなみに、この会見の際の住職は店主の同級生。ブログにもその驚きが書かれています。
店主ブログ <http://ameblo.jp/matubaya/>
その2 ■前立本尊にそっくりの「阿彌陀三尊像」がドイツ・リンデン民族学博物館に！ この、同じ鋳型で作られた可能性が高い三尊像は、博物館が1984年、米国の著名な日本美術収集家ハリー・バックカード(1914-91年)から購入したもので、それ以前の来歴は不明です。今後の調査が期待されています。また、お隣りの県信濃美術館で開かれる御開帳記念「いのりのかたち-善光寺信仰展」(4月4日～5月31日)にも展示ができるよう、現在リンデン民族博物館と交渉中。こちら2件の情報については信濃毎日新聞ホームページでも確認できます。
信濃毎日新聞社 <http://www.shinmai.co.jp/>
長野県信濃美術館 <http://www.npsam.com/>

華麗な中日庭儀大法要(ちゅうにちていぎだいほうよう)

御開帳でもっともはなやかな儀式、中日庭儀大法要は期間の中盤に大勲進と大本願が1日ずつ行います。華麗な法衣、舞い降りる散華はまさに極楽浄土のよう。浄土宗である大本願では稚児による礼讃舞が舞われます。住職の頭には水冠。法衣もきらびやかです。天台宗の大勲進では、本堂前での法要の後、釈迦堂(釈迦涅槃像があります)に移ります。これは昔『出開帳』といって諸国を回る際、こちらの涅槃像(釈迦等身大の像・国重要文化財)も、ともに回られたからです。また、釈迦堂(世尊院)前にも回向柱が建ちます。

きらびやかな釈迦堂(世尊院)



まだまだ見どころございます



牛に引かれて善光寺詣り。この出発点にあるのが小諸市の『布引き観音』。切り立った岩の凹みを利用して建てられた『懸産造り』のお堂はスリル満点。建築家の藤森照信先生もお気に入りです。

松葉屋家具店

〒380-0841 長野市大門町45
zengorou@matubaya-kagu.com
TEL026-232-2346
FAX026-237-4558

(木曜定休)

© 松葉屋家具店+道具学研究所2009
Copyright ©2009 Matsubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.
Design & Text, * kai+pan



**新編集しました！
松葉屋発の小冊子
をお送りします。**

ご希望の方は
←まで、ご請求ください。
(お電話、Fax、Mail)

左 ●松葉屋通信別冊
住まいの環境 再考
New edition!
右 ●木について詳しくなる
小冊子
Revised edition!